

Mランドニュース Vol.161

丹波ささ山校 令和2年9月1日発行

発行 (株)篠山自動車教習所 〒669-2436 兵庫県丹波篠山市池上569
TEL. 079-552-0815 FAX. 079-552-3940 発行責任者 井本 徹
<https://www.sasayama-ds.com/> E-mail info@sasayama-ds.com

今月の言葉

「他人のことを、
自分のこととして
考えられますか」

平成23年3月16日

小河 二郎前会長 弊社講話より

ようこそMランドへ

やわらぎ
爽チーム 前川 昂希
こうき

七月、初めての試みのオンライン相談会でご縁をいただいた、関西学院大学上ヶ原キャンパスの齋藤充様、春名秀昂様、高橋一郎様の三名が、八月、Mランドに入校してくださいました。

皆さんは毎日ボランティアに参加していただき、トイレ掃除はもちろん、教習車両の洗車や館内の掃除など、猛暑の中、一所懸命に取り組み、一緒に参加させていただいた私は、今も印象に残る気持ちのよい時間を過ごさせていただきました。

そんな皆さんの合宿を終えてのご感想を、ご紹介させていただきます。

私たちは初めから免許合宿に行こうと考えていて、大學生協のツイッターを通じて「オンライン相談会」があることを知りました。

相談会のときには行くことが決まっていたので、金額のこと、滞在日数のこと、食事のことなどを確認しました。

その中で、Mランドならではの「ボランティア」の話もありましたが、この時点ではまさか、毎朝ボランティアに参加し、私の考えがここまで変わると思ってもいませんでした。

Mランドに入校してすぐにオリエンテーションがあり、そこでMランドのポイントの話があり、もともと掃除が好きだった私は、ボランティアでポイントがもらえることを知り、早速翌日から参加しました。

このボランティアを通して朝から掃除をするのもいいと感じた私は、その次の日もボランティアをし、また次の日は二人を誘って参加し、繰り返し参加していました。

朝からボランティアをするという生活になり、生活リズムがよくなり、朝食をより一層おいしく食べることができました。

このボランティアを通して、「目線を変えて掃除をする」ということが特に印象に残っています。



見えないところこそ美しく(春名様)



足元もピカピカに(高橋様)



鏡のように磨き上げます(齋藤様)



毎朝、三人の笑顔は達成感にあふれていました

です。目線を変えることで今まで気付かなかった汚れに気付いたり、他の人の立場になって考えたりすることができたように思います。

Mランドで過ごした二週間はあっという間でした。単に免許を取得することだけでなく、他の人の視点に立つことで、いつもは気付かないことに気付いたり、ほんの些細なことでも感謝できたりと、心の面でも成長できたように思います。

仮免許取得後に、ポイントを使用してMランドオリジナルの帽子を購入しました。これはただ自分のためだけではなく、Mランドへの感謝の意も込めて購入しました。この帽子を手元に置いておくことで、将来ここで学んだ安全運転への想いも忘れなようにしたいと思います。

ごあいさつ

専務取締役 永井 興喜
おきのぶ



約十一年前、管理者を拝命し、多くの方々のおかげをもちまして、業務を全うさせていただけたことに、心より感謝申し上げます。

今後は管理者を次の世代に引き継ぎ、二年前から兼務していた専務取締役に専念していく所存です。

教習所業界も、新型コロナウイルスの影響で厳しい状況にあります。しかし、こんな時こそ、ピンチをチャンスに変え、お一人でも多くのお客様にお越しいただける教習所、社会に貢献できる企業でなければならぬと思っております。

小河二郎前会長が私たちに示してくださった理念に向かつて、社員一丸となって取り組んでまいります。

これからも、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

おかえりなさい

営業チーム 中野 聡

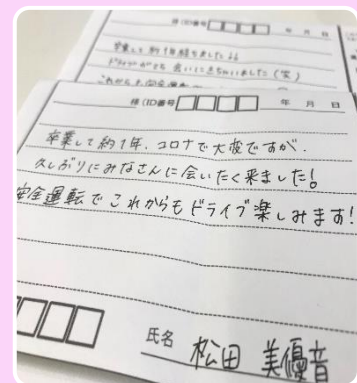
八月一日、昨年の夏休みにホーム生として滞在されていたゲストが、一年ぶりに車を運転し、Mランドに帰ってきてくださいました。

お越しいただいたのは、川西市在住の原野早紀様と松田美優音様です。



清々しい笑顔の松田様(左)と原野様(右)

お二人とも一年前とは違い、カラフルな髪の色とマスクの着用で、最初は名前と顔が一致しませんでした。合宿中の思い出話をしていて、当時の記憶も鮮明に蘇ってきました。



松田様

り人生を豊かにしていただくことが、何よりも嬉しく喜びを感じる瞬間です。

限られた時間の中ではありましたが、八月の最初にお越しいただいたことで、多くのお客さまをお迎えする繁忙期に、お二人からたくさんのお元気をいただきました。

お帰りの際には、メッセージもいただきましたので、ご紹介させていただきます。

卒業して約一年経ちました！ドライブがてら会いに来ちゃいました(笑)

これからも安全運転でいこうと思います！

原野様

卒業して約一年、コロナで大変ですが、久しぶりにみなさんに会いたくて来ました！安全運転でこれからもドライブ楽しみです！

松田様、原野様、本当にありがとうございました。これからもいっぱい楽しみな顔晴ってください！「安全運転にゴールなし！」

一事が万事

交通ルールを守ることは大切なこと。

そして、「人や自然に思いやりの運転」ができることもドライバーとして大切なこと。

こういった思いやりの心は「あいさつ」や「朝のボランティア活動」を通して、これから社会で活躍する若者に伝えたい心です。

掃除に関して多くの書籍がある中で、今月は㈱タニサケの松岡浩会長が二〇一七年に発行された「生き方の極意」の一節、「一事が万事」を皆さまにご紹介させていただきます。

「一事が万事」の意味は「わずか一つの物事から、他のすべてのことを推し量ることができる。また、一つの小さな事柄に取り組む姿勢が、他のすべての局面に現れる」と辞典にあります。また「自分の経験は、どんなに小さくても、百万の他人の経験より値打ちのある財産である」とも、ある方に教えられました。

私の小さな実践の一つに「ゴミ拾い」があります。その切掛となったのは、会社周辺の県道の側道にダンボールが散乱していたことです。

あまりの酷さに「日本の恥」と感じ、社員さんの協力を得て拾い集めました。

それ以来、ただ一人で毎朝、県道の側道のゴミ拾いを二十年近く続けています。

今では、ゴミの量は格段に減りましたが、タバコの吸い殻だけは以前と同様に落ちています。

毎日一時間弱のゴミ拾いを続けて感じたことは、道路にゴミを捨てるのは、大半が大人だということです。子供は誰も捨てません。残念ながら大人に対しては反発が恐ろしくて、誰も注意をしなくなりました。現状のままでは子供が大人になった時には罪悪感がなくなり、ゴミを平気で捨てることになるでしょう。

そうならないためには、大人がお手本を示す必要があります。教育哲学者の森信三先生は「足元の紙くず一つ拾えぬ程度の人間に何がで

きよう」。「人間が謙虚になるための手近な、そして着実な道は、まず紙くずを拾うことからでしょう」と語られています。

ゴミを捨てる人がいると批判をする前に、自らがゴミを拾うことが大切です。ゴミを捨てる人はゴミを捨てなくなるのです。また、ゴミが落ちていないきれいな環境を作っていくには、せんにゴミを捨てる人も減っていきます。

日本人の精神性の衰退は大人(年長者)の責任です。美しい日本の復活の足掛かりに、国民一人ひとりが誰でもできる、まずは足元のゴミを拾うことから始めたいものです。「一事が万事」を信じて……。

最後に名言を紹介します。「ひとつ拾えば、ひとつだけきれいになる」(鍵山秀三郎さんの言葉)

来年こそは

今年、残念ながら開催中止となった「デカンショ祭」。

恒例の打ち上げ花火も見ることができないだろうと思っていながら、「ドーン」と響き渡る花火の音。館内から急いで外に出て、音が聞こえた方向を見ると、

夏の夜空を彩る美しい花火を見ることができました。丹波篠山市の粋なはからいに感謝しました。



真夏の夜に予期せぬ大輪の花火

編集後記

十年前、福岡県からお越しになった、当時十八歳の母子家庭に暮らす高校三年生。春から医療関係の専門学校へと進学する彼に、部屋の整理整頓をお勧めしました。その後、送られてきたハガキには、「実行したところ、勉強の効率がグンと上がったことを実感し、家に帰るのが楽しみにになりました」とのこと。「素直」さは大切と教えられたお便りは、今も。(徹)

【掃除に学ぶ会】のご案内

私たちと一緒にトイレを掃除しましょう。

9/6 (日) 八上小学校 西トイレ (AM8:00~9:00 担当:前川)

9/27 (日) 篠山中学校 運動場トイレ (AM8:00~9:00 担当:中野)

※参加していただける方は井本までご連絡ください。